

## 「ほめ言葉の力」

落合中学校 渡辺 和之

突然ですが、ぼくは『ほめられてのびる』タイプです。みなさんはどうですか。たぶん、ぼくと一緒ですね。誰が厳しくしかられた方がのびるし、やる気になるというひとがいますか。ほめられたときの気持ちを思い浮かべて見てください。実はそれほどでもないのに... とか、たったそれだけのこと？と思うこと。でも、ほめ言葉をかけられて腹を立てる人はいませんよね。照れくさいけど心の中は何か『ほんわかしたもの』が生まれませんか。

ほめてもらった時は一瞬、優しくなれたり、やる気がでたりすることもあります。この魔法のことば。

これが僕たちを支えてくれたのです。

今、ぼくは生徒会長をつとめています。行事や日常のとりくみで忙しい毎日ですが、毎日が充実して楽しくてたまりません。笑い声あり、静寂あり。毎日の授業もみんなすごく頑張っています。チャイムと同時に始まりチャイム同時におわる。先生が時には冗談を言って笑いあったりするのです。当たり前じゃないかと思えるかもしれません。でも二年前の僕たちからは想像もつかない姿なのです。

中学に入学したてのぼくたちは、みんな暗かったです。集団行動は、ほとんどできず、整列して並ぶことさえまともにできません。授業は好き勝手に騒ぐ。先生によって態度をかえ、怒る先生には反抗し、鋭い目でにらみつける。暴力、破損、いやがらせ...。今振り返ってみると、みんな心がすさんでいました。

そんなぼくたちが、今では『無言集合』『5分前集合完了』など集団としての力を発揮し、下級生の手本となれるようになったのです。ここまでぼくたちを激変させてくれたもの。

それが『ほめ言葉』なのです。思えば色々な人が、ほめて励ましてくださいました。とびつきりは、学年主任の先生。厳しいときは容赦なくバシバシ叱られます。ところがほめるときには別人かと思うほど声をうら返しながらかほめまくって下さるのです。ぼくなんか「三男坊が大好きよ。」とほめてもらったことがあります。みんなを前に「誇らしいよ」「よくやるとるよ」とありきたりのほめ言葉なのですが妙に心に響くのです。

他の先生方もそうです。「生徒朝会すごいね」「あいさつの仕方が立派だったよ」と具体的にここが良かったとほめてくださると「ああ、見てもらってたんだ」「あれでよかったんだ」「じゃあ次はこうするぞ」とどんどんやる気がわいてきます。地域に方の声もうれしかったです。「近頃よくあいさつしてくれるね」「服装の乱れた子が減ったね」「ボランティアをいつもありがとう」など、こうしてほめられ、認められることで、「僕たちってまんざらでもないんだ」と少しずつ自分たちに自信が生まれてきたように思います。

今では『みそあじ』をテーマにみだしなみ、そうじ、あいさつ、時間厳守を集中してとりくみ成果をあげています。

ちょっとしたことでも認められほめられる。それでうれしくてやる気が出る。やる気を出

してがんばるからまたほめられる。この繰り返しの中で僕たちの学校は大きくなっていきました。でも実のところ、「どうなっとるんね！！」と厳しくおこられることもよくあるんです。それがあから『褒め言葉』がよけいにうれしいのかもしれない。

これからの僕は生徒会長として生徒みんながんばっていることは声を大きくして「すごいね」と、いっぱい褒めていこうと思います。大事な下級生がこれからも自信と誇りをもってすごしていけるように。